# 良き年であることを願って

会　長　飯塚弘志

新年を迎えるにあたって、一言ご挨拶を申しあげます。会員諸兄にはお揃いで、新しい年をお迎えになられたこと、まずもってお慶び申しあげます。

昨年前半から、若干の経済恢復の兆しが見え始め、やっと明るい光がという期待も空しく、後半から再び減速の方向へと向かいだしている。

その大きな要因は、国内の消費量が伸びていないためであるという。当然のことであろう。先行き不透明、明るい展望も開けず、極めて不安定で安心のできない社会において、ただでさえ懐具合の乏しい国民が、財布の紐を緩めるわけがない。

構造改革なくして経済発展なしと言うが、それで全てが解決するわけでは決してない。改革することが構造改革の目的であるかのように見える。それは違う。

わが医療界を振り返ってみると、診療報酬の引き下げ、高齢者医療の完全定率制、被保険者本人の3割負担等々で、患者の受療行動が大きく抑制され、それが昨年の1年間ずっと尾を引き、医業経営もまさしく危殆に瀕している状況である。

一昨年10月、日医会長候補として青柳俊氏が立候補を表明し、以来昨年4月の会長選まで長い闘いであった。先生方の厚いご支援、ご尽力をいただきながらも、敗れた。私どもの不徳の致すところである。しかし医師会活動の目的は、国民の健康の維持増進であり、いつまでもシコリを持つことなく、一致協力して事に当たっていかなければならない。

7月の第20回参院選では、西島候補が25万票余の得票で上位当選を果たすことができた。これも諸先生のより具体的なお力添えの結果であるが、北海道においては今一つの感がなきにしもあらずであった。

昨年末から、混合診療解禁の動きが急を告げ、当会においても「日本の医療を守る道民協議会」に34関係団体の参加を得、立ち上げた。

混合診療反対の署名運動をはじめ、ポスター、チラシの配布、ラジオ、新聞でのPR、さらには「日本の医療を守る道民の集い」を開催し、1,100名余の参加者を得た。また、混合診療解禁反対の署名者数が全国で600万人近くとなり、衆参両院議長あてに請願書の提出がされ衆参両院本会議において採決された。また、北海道議会においても、去る12月10日、全会一致で「混合診療の解禁に関する意見書」が可決された。以上のような経過を経て、12月15日、いわゆる混合診療の全面解禁は阻止され、保険外負担の在り方を根本的に見直し、迅速かつ適確に対応できるよう担当大臣の間で基本的合意がなされ、総理もそれを了承した。各位の努力を多としたい。

今年度からは、介護保険の見直し、改定、高齢者医療保険制度を中心とした、医療保険制度の抜本的改正、医療提供体制の再構築のための第5次医療法改正、等々多くの問題の改定が迫られている。いずれも、21世紀の医療体制のレールを引く重要な問題であり、これらは社会保障制度のあり方の中での位置付けが肝要となろう。

道内の問題として、一昨年からの名義貸しにからむ不正請求問題の始末が未だ何件か整理されておらず、公正に対応しなければならない。

昨年4月から新しく始まった「卒後臨床研修制度」が2年目を迎え、より充実した研修が求められている。

また、道州制、市町村合併、三位一体改革、等これらはわれわれ医師会に大きく関わる問題であり、積極的に対応していく必要があろう。

以上多くの課題を抱えながら今年も、先生方の温かいご支援、ご尽力をいただき、精一杯の努力を傾注して参る所存であります。

先生方のご健勝を祈りながら、新しい年にあたってのご挨拶といたします。